

第2学年2組 国語科 学習構想案

日 時 令和7年2月21日(金) 第5校時

場 所 甲佐中学校 2年2組教室

指導者 教諭 高島 淳

1 単元構想

| | | | |
|---------------------------------------|--|---|---|
| 単元名 | 7 効果的に表現する 「いきいきと描き出そう 短歌から始まる物語」(「新しい国語2」東京書籍 p.199~205) | | |
| 単元の目標 | (1) 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 (2) ①人物や情景をいきいきと表すように、描写を工夫して物語を作ることができる。 ②物語の描写の工夫やその効果などについて、他者からの助言を踏まえ、自分の物語のよい点や改善点を見いだすことができる。 (3) 進んで表現や物語の流れなどの工夫について考えるとともに、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 | | |
| 単元の評価規準 | 知能・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| | ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 | ・人物や情景をいきいきと表すように、描写を工夫して物語を作っている。 ・物語の描写の工夫やその効果などについて、他者からの助言を踏まえ、自分の物語のよい点や改善点を見いだしている。 | ・進んで表現や物語の流れなどの工夫について考えを伝え合い、それを文章に生かそうとしている。 |
| 単元終了時の生徒の姿(単元のゴールの姿・期待される姿) | | | |
| 作品を通して、ありのままの自分をいきいきと豊かな言葉で表現できる生徒の姿。 | | | |
| 単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題) | | 本単元で働かせる見方・考え方 | |
| 自分の作成した短歌から、いきいきとした物語を広げていこう。 | | 物語を書く際の描写の工夫やその効果などについて考え、言葉への自覚を高める。 | |

2 単元における生徒の実態

| | | |
|---|------|---------|
| 学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等) | | |
| 中学校学習指導要領2学年 [知識及び技能](1)言葉の特徴や使い方に関する事項 エ [思考力、判断力、表現力等]「B 書くこと」(1)ウ、オ | | |
| 研究テーマにせまる生徒の学びの実態 | | |
| ①本単元の学習に関する意識の状況[非認知能力アンケート結果より] | | (／5.00) |
| 調査項目 | 7月 | 10月 |
| 自己調整学習スキル(学習内容や方法を選択し課題解決する力) | 3.75 | 3.68 |
| 粘り強さ(あきらめずに粘り強く取り組む態度) | 3.78 | 3.56 |
| 内発的意欲(主体的に取り組む態度) | 4.00 | 3.79 |
| ②考察 7月の時点では、3項目ともに平均的に高い数値であったが、10月には全体的な数値の低下が見られた。中でも、「粘り強さ」と「内発的意欲」の項目の低下が顕著である。この実態を踏まえ、粘り強く学習に向かい、内発的意欲を高められるような「楽しい授業」づくりを目指したい。 | | |

3 指導に当たっての留意点(校内研修の重点事項)

① 楽しい授業づくりの工夫

- ・1学期に生徒自身が作成した短歌をもとに物語を書いていくことで、興味関心や書く活動に対する意欲に繋げる。また、単元ごとの系統性を実感させることで、毎時間の学習の大切さも意識させる。
- ・あらすじを作成する際に他者からアドバイスや様々な視点をももらうことで、書くことに苦手な意識をもっている生徒が粘り強く取り組めるようにする。

② 終末の工夫

- ・単元の導入で学習計画を確認することができる振り返りシートを配付し、目標の達成や課題の解決を意識しながら毎時間の学びを振り返るようにする。
- ・単元の終末ではタブレット端末で文章を清書させ、それを印刷して本のように綴じる。

4 本時の学習（2 / 5）

(1) 目標 短歌や整理した材料を伝え合い、他者からのアドバイスを踏まえて物語のあらすじをつくることができる。

(2) 展開

| 過程 | 時間 | 学習活動 (◇予想される生徒の発言) | 指導上の留意事項 (学習の目的・意図, 内容, 方法等) |
|----|----|--|---|
| 導入 | 5 | 1 前時の復習をする。【チェックタイム】 2 本時の見通しをもつ。 【めあて】 話し合いを通して、物語のあらすじをつくること 【学習課題】 アドバイスをし合って、自分の物語のよい点や改善点を見いだそう。 | ○大型テレビを用いて、前時や本時の内容を視覚的に分かりやすくする。 ○ゴールの姿を確認し、単元全体の見通しをもたせる。 |
| 展開 | 35 | 3 目標の達成に向けて活動する。 ① 班活動に向けた準備を個人で行う。 【シンキングタイム】 ◇私は「(各自の短歌)」という短歌から学校の校庭での出来事の物語を書こうと思います。 ◇物語の終わり方がわからないから相談してみよう。 ② 班活動を通してアドバイスをし合う。 【アクションタイム】 ◇登場人物を増やしたほうが良いんじゃないかな。 ◇雨が降っていたら雰囲気が出るよ。 4 物語のあらすじを完成させる。 ◇〇〇さんが言ったように天気を雨にしてみようかな。 【期待される学びの姿】 対話で得た助言を踏まえ、試行錯誤しながらあらすじに反映させる姿 | ○個人で発表の模擬練習を行わせる。 ○「いつ」「どこで」「誰が」「どうした」という物語の材料の中で、困っていることなどを班で相談できるように準備を促す。 ○アドバイスの視点を提示し、活発な意見交換を促す。 ○相手の考えを引き出すために適宜質問をさせる。 【具体の評価規準】 観点：思② 物語の描写の工夫やその効果などについて、他者からの助言を自分のあらすじの作成に生かしている。(方法：ワークシート) 【到達していない生徒への手立て】 ○班で交流したメモを確かめ、意見の取捨選択を行わせることで、あらすじの作成を進めていく。 |
| 終末 | 10 | 5 まとめと振り返りをする。 【チャレンジタイム】 【まとめ】 話し合いを通して、情景描写を取り入れたあらすじを書くことができた。 ◇班活動を通して、物語の流れがおもしろくなったぞ。 | ○振り返りシートを用いて、本時の自己評価と学んだことなどをまとめる。 ○次時の予告をし、見通しがもてるようにする。 |